

科目コード	記号	科目名	学年	単位・時間	必修・選択	授業形態	単位種別	
3003	MBG03	国語 Ⅲ : Japanese Ⅲ	3MB	2・90分	必修	講義・通年	履修単位	
教 員 名		小川 富子 : OGAWA Tomiko						
授業概要	「読む」・「書く」・「聞く」という、国語の基礎となる分野をバランス良く授業に取り入れ、その力を養う。後期は主にディベートを行い、情報を収集し、分析し、消化し、制限時間内に主張する能力をつける。論題は学生の意見を取り入れて、身近な時事問題を中心に取り上げる。偏りがないように配慮する。							
	到達目標			評価方法				
(1)前期は教科書教材を通して「読む」・「書く」の基礎的能力を高める。 (2)後期は、ディベートを通して、次のそれぞれの能力をつける。 ① 情報を収集・選択し、整理することができること。 ② 物事を多面的に捉える事ができること。 ③ 制限時間内で一定の内容を主張できること。 ④ 「聞く」能力を高めること。 ⑤ 要約力をつけること。			①定期試験(中間・期末試験)、②ディベートの実践、③ジャッジシートの記入状況、④レポート・提出物を総合的に勘案して評価する。なお、評価配分は、①50%、②20%、③20%、④10%とする。					
		(G) ①	a					
前 期			後 期					
授 業 計 画	回	項 目	内 容		回	項 目	内 容	
	第1	ガイダンス	自己紹介や国語の授業の進め方を説明する。シラバスの到達目標を確認する。「赤い繭」を読む。		第16	ディベートの方法	ディベートDVDを使い、ディベートの方法を説明する。論題を決め、一巡目の担当を決定する。	
	第2	小説 「赤い繭」 ①	登場人物の行動、心理、性格を読み取り、作者のものの見方、感じ方を理解する。		第17	ディベートの実践 ①	第一巡目の論題はこちらで準備する。	
	第3	小説 「赤い繭」 ②	同上		第18	ディベートの実践 ②	アンケートによって決めた論題について実践。国語の常識問題。	
	第4	小説 「赤い繭」 ③	同上		第19	ディベートの実践 ③	同上	
	第5	詩歌 ①	谷川俊太郎、萩原朔太郎の詩を読み、それぞれの作品の詩情を味わい、作者の表現しようとした世界を理解する。		第20	ディベートの実践 ④	同上	
	第6	詩歌 ②	同上		第21	ディベートの実践 ⑤	二巡目開始	
	第7	評論 『『生きる』という こと』 ①	評論の構成や展開を全体的にとらえ、論旨を的確につかむ力を養う。生きることの意味や人間存在の本質について認識を深める。		第22	ディベートの実践 ⑥	同上	
	第8	中間まとめ	中間まとめとして、試験を実施する。		第23	中間まとめ	中間まとめとして、試験を実施する。	
	第9	評論 『『生きる』という こと』 ②	評論の構成や展開を全体的にとらえ、論旨を的確につかむ力を養う。生きることの意味や人間存在の本質について認識を深める。		第24	ディベートの実践 ⑦	アンケートによって決めた論題について実践。国語の常識問題。	
	第10	評論 『『生きる』という こと』 ③	同上		第25	ディベートの実践 ⑧	同上	
	第11	評論 『『生きる』という こと』 ④	同上		第26	ディベートの実践 ⑨	同上	
	第12	小説 「光は水のように」 ①	翻訳小説を読み味わうことをとおして、言語、風土、歴史の中の異なる外国文学への理解と関心を深める。		第27	ディベートの実践 ⑩	同上	
	第13	小説 「光は水のように」 ②	同上		第28	ディベートの実践 ⑪	三巡目開始	
	第14	小説 「光は水のように」 ③	同上		第29	ディベートの実践 ⑫	同上	
	第15	前期まとめ	前期授業のまとめ		第30	まとめ	ディベート試合特別編 授業のまとめと授業評価アンケートを実施する。	
関連科目		国語Ⅰ・国語Ⅱ						
教科書		『精選現代文』東京書籍／ディベートの基本資料はこちらで準備する。						
参考書		『ステップアップ高校漢字問題集』東京書籍						
授業評価・理解度		最終回に授業評価アンケートを行う。						
副担当教員		畑村 学 : HATAMURA Manabu						
備 考		ディベートの二巡目・三巡目開始時は、クラスの数により変動する。						